

### 第3回ガイド研修【信濃川水源地調査】報告

○日 時：平成30年6月2日(土)～3日(日)

○参加者：水源地調査班 11名／ガイド学習班 10名

○行 程

1日目：海野宿（昼食）⇨ 佐久市立天来記念館 ⇨ 美ヶ原 ⇨ 旧中山道和田嶺トンネル 青山土碑文 ⇨ 金峰山荘（宿泊）

2日目：【水源地調査班】毛木場駐車場～水源地標（登山時間4時間）⇨ 昼食休憩  
⇨ 水源地標～毛木場駐車場（下山時間3時間30分）

【ガイド学習班】国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 ⇨ 三分一湧水館 ⇨ 甲州ほうとう小作（昼食）⇨ 毛木場駐車場 周辺散策



今回の行程1日目は大河津分水にゆかりのある場所へ。1つ目は資料館前の大きな石碑「信濃川治水紀功碑」の碑文を書いた比田井 天来の記念館、2つ目は旧中山道和田嶺トンネル出入口上部に掲げられている青山 土がエスペラント語で残した碑文を見学しました。2日目はガイド学習班は2箇所の見学地、水源地調査班は甲武信ヶ岳登山、と別々に行動しました。

信濃川水源地は甲武信ヶ岳（標高2,475m）の2,200m地点にあります。この日は雲一つない晴天でした。登山道を歩いていると木々の隙間から日差しが優しく差し込みとても美しい風景でした。道の脇を流れる清流を辿り、丸太を渡り、木の梯子を登り、といくつか難所はありましたが、なだらかな道が多かったのでそれほど苦しくなかったです。ちょうど真中に位置するナメ滝に着いてからの道のりが疲れも出てきて長く感じました。休憩をこまめに取りながら進んでいくと、少しずつ高度が上がり千曲川の水量がほとんどなくなってきたところで、ついにゴールの水源地標へ到着。源流はそこから少し下りたところにあり、岩の奥から湧出のようにチョロチョロと流れています。手がかじかむほど冷たい水で、ペットボトルに入れて飲んでみるととても美味しく疲れが吹き飛ばすようでした。この一滴がいくつもの支流の川と合流して大河信濃川に・・・ここから始まっているんだと思うと感動です。今回の研修に参加して良かったとしみじみ感じました。

千曲川信濃川水源地標は昭和53年に信濃川治水百年を記念して建立されました。これを現地まで担いで運んだという噂を聞いていましたが、事務局長が先輩に聞き記憶を呼び覚ましてもらったところ、ヘリコプターで現地付近まで運んだそうです。当時は地面に垂直に建てられましたが40年の歴史の中で雪などの影響により上記写真のように傾斜してしまっただけです。

### 第3回ガイド研修・避難消火訓練

○日 時：平成30年6月16日(土)9:00～12:00

○場 所：信濃川大河津資料館

○参加者：15名

年に一回の避難消火訓練を実施しました。出火元は1F男子トイレ。来館者役の参加者には各階にそれぞれ散らばり、誘導員役の指示に従って避難してもらいました。いざという時に来館者を安全に誘導することができるように常日頃から心掛ける必要があると実感しました。消防の方からは、来館者役は避難経路を知っているのでスムーズに避難できたが、実際に起きた時はそうはいかないことを心得るようにと指導を受けました。そして、避難の際はハンカチを口に当てることを忘れずにしましょうとのことでした。



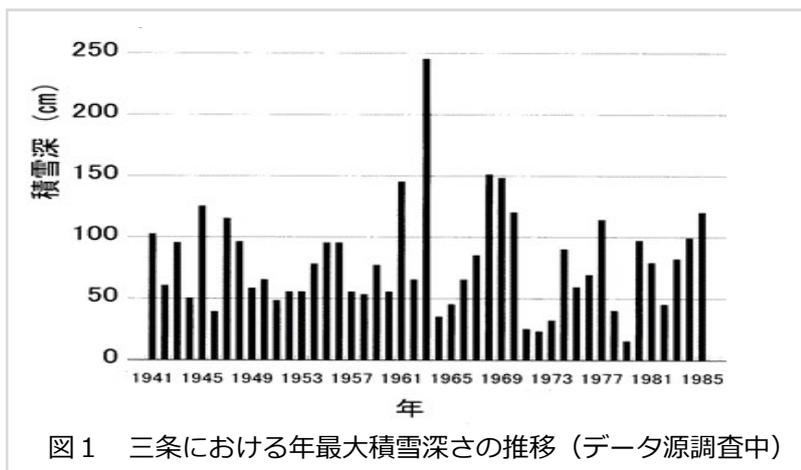
## 猛暑の中、過ぎ去った冬の“豪雪”を振り返る

こここのところ35℃以上にもなる猛暑日が続いている。7月30日台風12号が本州を正に串刺しするように突き進んだ時には、フェーンと呼ばれる熱風が吹いたようで三条や燕でも39℃という高温を記録したようだ。これらの高温現象は、正しく異常気象と呼ぶにふさわしい現象にちがいない。

ところで異常気象というと、今年の1～2月長岡から新潟にかけて発生した豪雪もそのひとつと言えるであろう。この1月と2月の長岡と新潟の積雪の深さを、気象庁のアメダスデータで見ると、1月はむしろ長岡より新潟の方が積雪深さが大きい日が多く、特に1月12日は長岡で48cmに対し、新潟では84cmを記録しているのである。この傾向は2月に入ると長岡の積雪深さが新潟のより多いという普通の状態に戻り、2月8日には長岡市での積雪深さがこの月の最大値145cmに対し、新潟ではわずか34cmとなるのである。

ではこの間三条ではどうだったのであろう。ところが残念なことに、三条のアメダスデータには、雪に関する情報の記載が無いのである。しかし私には別の意味でデータはあるだろう、という確信があった。およそ20年前、三条公民館の要請で、三条市民を対象に、「三条の雪」という題で話をした。図1はその時用いたもので、1941年から1985年までの毎年の年最大積雪深さをしめたものである。

これで見ると、三条での年最大積雪深さはほぼ80～90cmであるようである。実はかくいう私も、1月13日、燕三条駅から大河津資料館迄タクシーを



飛ばして行っている。そして大河津分水路の堤防に立ち積雪深さが私の腰のあたり、ほぼ90cmであることを確かめている（写真）。こういった点をまとめて言えば、三条、燕地区では年間最大積雪深さは多い年で80～90cmに達すると考えてよいのではないだろうか。

雪は今では大規模な洪水を引き起こすことは考えられないであろう。しかしながら、今年の冬に出会ったような、ここに住んでいる人に対しては、面倒な交通障害をもたらす可能性は十分にあるのである。

## クリーン作戦

- 日 時：平成30年6月16日(土)13:00～14:00
- 場 所：信濃川大河津資料館周辺及び本川橋下流側
- 参加者：15名

曇り空で気温もちょうどよかったのでクリーン作戦には絶好の日になりました。本川橋下流堤防治いを重点的に行いながら、かなり遠くの方まで範囲を広げてゴミを拾いをしました。



## 庭木の剪定

- 日 時：平成30年6月16日(土)14:00～15:00
- 場 所：信濃川大河津資料館敷地内
- 参加者：15名

昨年11月に予定していた剪定は雨天の為できなかったため庭木は枝が伸びきってしまいましたが、皆さんが手分けして剪定していただいたお陰で、やっと綺麗になりました。



## 押し花であんどんづくり

○日 時：平成30年6月24日(日)10：00～11：30（会員対象）

14：00～15：30（一般対象）

○場 所：信濃川大河津資料館 2F多目的ホール ○参加者：27名

押し花や折り紙などを使用してあんどんを作る講座を開催しました。定員オーバーの為に午前は会員対象、午後は一般対象と分けて行った講座はどちらの回も皆さんが楽しそうに作っていたのが印象的でした。初めて作るので慣れない部分もありましたが、それぞれ味のある素敵なあんどんが出来上がりました。



## 県外河川探訪 ～白山砂防と手取川・梯川～

○日 時：平成30年7月29日(日)～30日(月) ○参加者：28名

○行 程【1日目】大川津ふれあいセンター ⇨ 梯川 小松天満宮(梯川改修見学) ⇨ 手取川 川北町スポーツ公園 (手取川 霞堤見学) ⇨ 白山砂防科学館見学 ⇨ ホテル八鵬(宿泊)

【2日目】手取川ダム見学 ⇨ 手取川 百万貫の岩見学 ⇨ 白山砂防 甚之助谷(甚之助谷砂防堰堤群 柳谷導流落差工見学) ⇨ わさび沢(昼食) ⇨ 白山比咩神社参拝 ⇨ 大川津ふれあいセンター

今回は石川県の手取川と梯川と白山砂防へ見学に行ってきました。1日目の梯川改修は梯川を拡幅する際、文化財保護の為に小松天満宮を移転せずに分水路方式を採用し、中の島に小松天満宮が位置しているという全国的にも珍しい河川改修だそうです。白山砂防科学館では2日目に見学する百万貫の岩の模型や昭和9年の水害などの3D映像を見せていただきました。翌日は国土交通省 金沢河川国道事務所の職員の方々に現場を案内していただきました。皆さんの印象に残ったのが百万貫の岩です。土石流によって上流から3キロも流されてきた4839トンもの巨石は過去の大災害の恐ろしさを忘れるなど語っているようでした。このような災害から住民を守るために80年以上にわたり砂防事業が行われており、その現場を今回特別に見学することができました。昭和初期の人力施工による甚之助谷堰堤群から、最新技術の遠隔操作で行う無人化施工による柳谷導流落差工。昔の工事の大変さや苦勞、現在の工事技術の凄さを間近で感じることができました。昼食のわさび沢では竹腰永井建設の方々に山から流れる美味しい湧水で『流しそうめん』をしていただきました。最高のおもてなしに全員大感激。一生の思い出になりました。お世話になった皆さま、ありがとうございました。とても楽しい旅となりました。



百万貫の岩の前で記念撮影

夏の特別展

### 信濃川大河津資料館

主催：信濃川河川事務所

#### 大河津分水の生き物たち

【期間】平成30年7月7日(土)～9月24日(月・祝)

【会場】2F企画展示スペース

【開館時間】午前9時～午後4時

【休館日】毎週月曜日（祝日の場合は翌日休み）

大河津分水周辺で見られる魚を中心に水槽や標本で約30種類の生き物たちを紹介します。



### 水辺の生き物観察会

○日 時：平成30年8月4日(土)9：00～12：00

○場 所：大河津分水公園 体験水路

○参加者：31名

○主 催：NPO法人水環境技術研究会

共 催：NPO法人信濃川大河津資料館友の会

例年よりも多くの方にご参加いただきました。暑さが心配でしたが、そんな心配をよそにお子さん達はとても楽しんで魚やザリガニを捕っていました。



## 河川文化講演会『パナマ運河と大河津分水展示記念講演会』

地球のほぼ反対側に位置するパナマ運河と大河津分水との関係や歴史とはどういったものなのか。様々な視点から3名の講師の方にご講演いただきます。ご参加希望の方は事務局までご連絡ください。

- ◆日 時：平成30年10月14日(日) 13:00～16:30
- ◆場 所：大河津出張所1Fホール
- ◆参加費：無料
- ◆定 員：100名

### 【プログラム】

講演①『世界の大型土木構造物見て歩き紹介』

講師：伊藤 和久 氏（一般社団法人 国土技術研究センター 河川政策グループ 総括）

講演②『パナマ運河の仕組みと開通・拡張による効果』

講師：畠田 繁実 氏（国土交通省 金沢港湾・空港整備事務所長）

講演③『青山 士の軌跡とパナマ運河建設工事』 講師：清水 弘幸 氏（荒川知水資料館 アラボラ講座 講師）  
（16:00から30分程度、大河津資料館においてパナマ運河に関する展示の説明会を行います。）

※駐車場に限りがございます。なるべく公共交通機関をご利用いただくか、お乗り合わせの上、お越しください。

【交流会】17:00～19:00 弥六割烹（燕市長辰6982） 会費：5,000円 TEL：0256-97-2201

（16:30に大河津資料館から交流会場までのバスが出ます。交流会終了後は燕三条駅までのバスが出ます。）

## サケまつり

今年も秋の風物詩「サケまつり」を開催します。信濃川の鮭と旬の美味しい野菜をたっぷり入れたサケ汁、美味しい新米のおにぎりをどうぞご賞味ください。お待ちしております！

- ◆日 時：平成30年10月14日(日)11:00～
  - ◆場 所：信濃川大河津資料館前
  - ◆先 着：100食
- お申込は不要です。直接会場へお越しください。

★9月に予定していましたが『大河津改修現場見学会』は日程を変更して、10月以降に開催することになりました。詳細が決まりましたら会員の皆さまに別途お知らせいたします。



こちらの書籍『信濃川 暮らしの物語』を希望者に配布しています。ご希望の方は資料館へお越しください。数に限りがありますので、無くなり次第終了となります。

### ≪編集後記≫

◆9月8日(土)に資料館周辺にて『大河津分水サクスフェスタ』が開催されます。トークショーや様々な水辺遊びと体験ができます。友の会事務局はハンドメイド展を出展参加します。ぜひ遊びに来てください。(E)

## 県内河川探訪

「～新潟開港150周年～『川港にいがた』にふれる」

2019年1月に開港から150年を迎える新潟港（西港）周辺を巡ります。あらためて港町（湊町）新潟の歴史を振り返るとともに、港・海岸に関わる様々な技術にふれます。参加希望者は事務局へお申し込みください。

- ◆日 時：平成30年11月2日(金)8:30～16:30
- ◆参加費：1,500円程度
- ◆定 員：20名

### ◆行 程

大川津ふれあいセンター（8:30）⇨ 日和山（住吉神社）⇨ 新潟造船(株)（造船工場を見学）⇨ 新潟市歴史博物館「みなとぴあ」⇨ ピアBandai新潟鮮魚問屋「港食堂」（昼食・ショッピング）⇨ 新潟港湾・空港整備事務所・新潟港湾空港技術調査事務所（水理実験場・新潟西海岸浸食対策事業現場・浚渫兼油回収船

「白山」の見学）⇨ 大川津ふれあいセンター  
※申込締切：10月12日(金) 定員になり次第締め切ります。足場が悪い場所がありますので歩きやすい靴でお願いします。

### 【事務局連絡先】

〒959-0123 燕市大川津1215-7  
TEL 090-2673-6596（事務局長）  
080-9876-3683（事務局）  
FAX 0256-97-3682  
e-mail ohkouzu\_tomonokai@yahoo.co.jp  
https://www.facebook.com/ohkouzuTOMO/